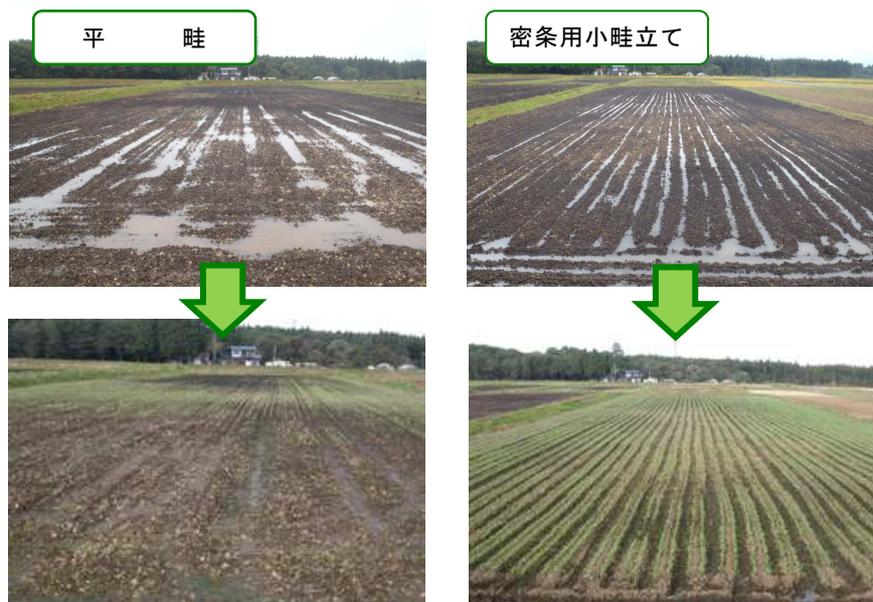


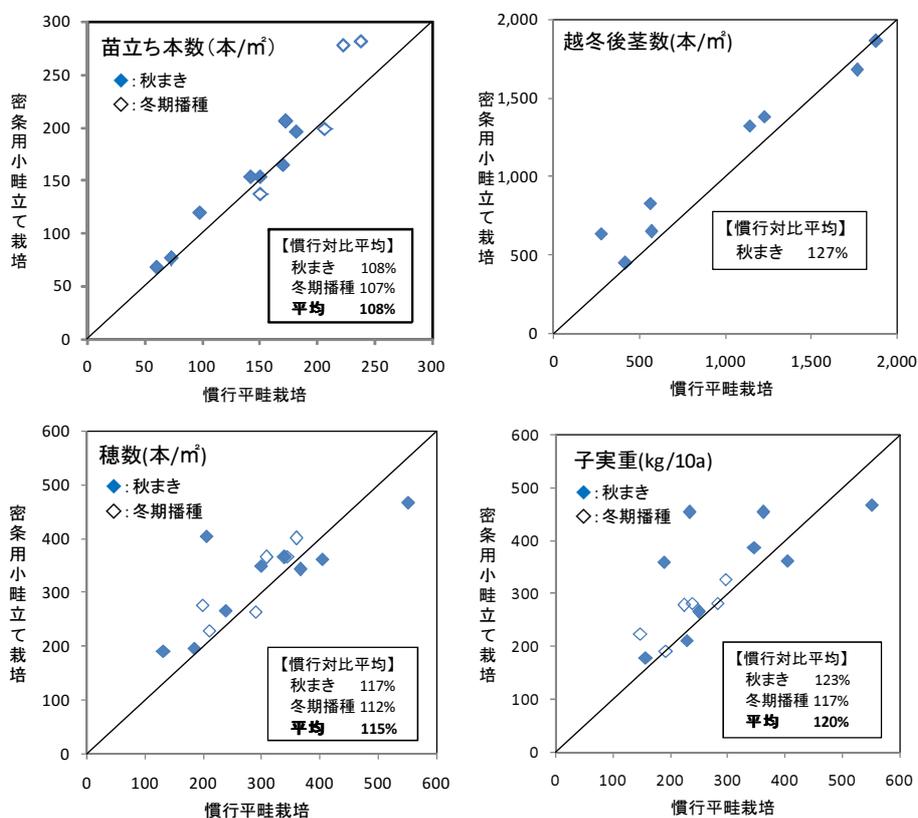
3. 試験成績

麦類の技術開発試験（平成 22～23 年播種）

密条用小畦立て播種栽培では、雨水が畦溝に集められることから、播種条付近の滞水が回避されるため、平畦に比べ、苗立ち本数・越冬後茎数・穂数が増加し、子実重は 1～2 割程度の増収が見込めます。なお、千粒重・容積重については、慣行平畦と同等です。



図Ⅲ-7 降雨時の滞水と苗立ち状況（平成 23 年秋播種「ファイバースノウ」）



図Ⅲ-8 生育及び子実重の比較（2010, 2011 年試験事例：密条用小畦立て/慣行平畦）